Corporation File VOL.22

いまいメディカルグループ
代表取締役
今井 亮 氏

さまざまな課題に
取り組む企業を、
その過程や七十七グループとの
関わりなどを交えながら
当社にてコンサルティング支援をした
企業を中心にご紹介します。
今回は、いまいメディカルグループの
今井社長にお話を伺いました。

“薬局”の枠を超え、地域に必要とされる医療で貢献できる店舗を

地域から必要とされる医療、患者さんに寄り添うホスピタリティ精神と効率化を両立しつつ社員も成長する、三方よしの事業を

仙台市営地下鉄富沢駅の周辺は、東日本大震災後に不動産取引が活発化し、また仙台市による土地区画整理事業が進められ、商業施設の進出が続いているエリア。比較的高収入の子育て世代に人気が高く、新築の家やマンションが立ち並んでいます。そこで暮らす三世代をターゲットに、いまいメディカルグループの保険薬局第一号店となる大野田オレンジ薬局が2010年10月に開業しました。

現在21店舗の薬局を展開するいまいメディカルグループは、保険薬局の運営と、独立開業を検討している医師のコンサルティング業務を主に行っています。現在も仙台エリアにて複数の医療モールを構想中です。「開業医も専門性がより発揮される時代が来ると考えていましたので、1つのクリニックに1つの薬局より医療モールのほうが患者さんも便利であり、薬局も効率化出来るため、医療モールの立ち上げに目をつけました」と今井社長は開業当時を振り返ります。「医師の開業コンサルティングが出来る薬局は数が少ないので、それが出来ることがわが社の強みです。どのエリアでどんな医療が必要とされているかを把握しているので、医師にも患者さんにも喜んでいただける、三方よしの開業をご提案することが可能です」。

1 薬剤鑑査支援システムなどを導入し、より働きやすい職場環境を実現
2 常に患者さんに寄り添う心を大切にした対応を心掛けている
3 震災後に開発の進んだ富沢駅東口にある本社

製薬会社の営業マン時代に見てきた現場のリアルから生まれた企業理念

自らも薬剤師の資格を持ち、製薬会社に勤めながら起業を考えていた今井社長。営業に携わりながら、立ち上げる会社の理念を模索し、起業の際に掲げた企業理念は、薬局を開業するエリアでの地域貢献、患者さんに対しての接し方、そして社員の満足度を謳ったものでした。「会社の外に対しても、社員に対しても、みんなが幸せにならなければ意味がないので、当社では、この企業理念を体現出来る社員が増えるような社内研修を行っています」。目先の利益だけで動き、ホスピタリティのマインドに欠ける現場も少なからずあると感じていた営業マン時代、それを反面教師に「地域の皆さまから必要とされなければ、保険薬局として存在意義がない」と今井社長は言い切ります。

少子高齢化社会時代を見据え 在宅医療への対応とDX化を推進する

開業から13年、年間1〜2店舗程度の医療モールを開業し、従業員も毎年20〜30人採用しながら、売上も順調に伸びています。そうした中で、少子高齢化社会を見据えた取組みにも力を入れています。

ひとつは、これまでの外来中心から新たに在宅医療への取組みをスタートしたこと。老老介護で苦労している個人宅への対応を、すでに行っています。「在宅医療は医師と看護師、薬剤師がチームを組んで対応します。自宅で亡くなりたいガンの末期患者さんですと、薬剤師は週に4〜5回訪問して痛みを緩和する薬剤等を調整することもあります。訪問回数が多くなり、大変なことも多々ありますが、ホスピタリティマインドをもって実行していきます。新卒の薬剤師たちも、そういった医療に携わる意志のもと入社してくれています」と今井社長。

もうひとつはDX化の推進です。現在は自動精算機の導入と、LINEを使っての患者さんのフォローを進めています。「まずは数店舗ずつ導入して、その問題点を抽出しています。出来れば2〜3年後に全店舗に導入し、人がやらなくて済む部分は機械化を進めていきます。比較的ご年配の方は変化を嫌うのですが、そこを説得しながらでしょうか。効率化を進めながら、空いた時間を使って患者さんに寄り添っていけるよう、社員には効率化とホスピタリティの両立を目指して欲しいと思っています」。

新型コロナウイルスとの戦い、そして ワクチン接種を支えていた薬剤師たち

2020年当初、誰にとっても未知のものであった新型コロナウイルス。その渦中でも、オレンジ薬局の薬剤師たちの活躍がありました。門前の医師の意向に合わせ、ドライブスルー形式や店舗裏口での患者さんへの対応などやり方は様々でしたが、マスク・手洗いの徹底、そして厳しい行動制限を守って業務を続けました。「医療を提供する側がウイルスを提供する側になってしまっては本末転倒なので、みんな厳しい規制のなか本当によく頑張ってくれました」と仙台市薬剤師会の常務理事も兼務される藤谷取締役は回想します。

当時、仙台市から薬剤師会にワクチン充填を担当する人材の派遣依頼があり、薬剤師会ではワクチン接種開始までの2ヶ月間に約10回の研修会を行い、接種会場への派遣を行いました。藤谷取締役は「土日が潰れますし、やはりみんな怖いので最初のうちはあまり参加してくれませんでしたが、積極的に社内のスタッフに声をかけたところ、常に10〜20人がエントリーしてくれるようになりました。私が人員配置を担当していたので、当社スタッフには市内でも遠方の会場を多く担当して貰いましたが、みんなよくやってくれたと思います」。藤谷取締役は続けて、スキルもホスピタリティ精神も高く、医師・看護師との連携も上手くこなした社員に対し、「みんな本当に、誇りを持って頑張ってくれました」と語りました。

4 役員と本社スタッフ。在宅医療や店舗の応援に動ける部署もある
5 「みんなが幸せにならなければ意味がない」という社長の想いを共有するスタッフが揃っている

6 「現在進めている開業案件でも、人間的にとても素敵な先生方が集まっているので、皆様のお役に立てると思います」と語る今井社長
7 専務取締役 業務推進室 室長　薬局事業部 部長　大場 信行 氏　8 取締役 本社管理部 部長　藤谷 修平 氏

新たな人事制度で屋台骨となる人材を育て 100年続く企業を目指す

業務は順風満帆でしたが、会社で作成した人事制度が複雑で上手く機能していなかったため、取引のあった七十七銀行を通して七十七リサーチ&コンサルティング（以下、R&C）に人事制度のコンサルティングを依頼しました。「これまでの人事制度はどちらかというと査定するものでしたが、今回はその等級に求める能力に焦点を当て、人を育成する制度を目指しました」と話すのは、今井社長と共に独立・起業し、会社の中枢を担っている大場専務。本社の管理職だけでなく、現場の薬局長たちも招聘して、約2週間に一度のペースで白熱した議論を重ねました。

新しい人事制度は昨年10月から始まっており、「良い点を見いだして、この能力をもう少し伸ばして欲しい」というポジティブフィードバックや、降格制度も取り入れました。

「管理職を育成したいという意図をR&Cさんに伝え、それを汲んでいただいた内容になったと思います。人事制度のプロの方々のご意見をいただき、私たちのこれまでの考えは甘かったと身に染みました。これからこの制度を運用して、また課題が出てきた部分を修正していく作業が必要になりますが、R&Cさんに伴走していただければ、非常に心強いと思います」と大場専務。また今井社長は、医療という特定の業界ではなく、様々な会社から相談を受け、広い視野と高い視座を持つコンサルとの作業がとても有益だったと振り返ります。

人の暮らすところに医療は欠かすことが出来ません。「かかりつけ医」がいるように、かかりつけの薬局が身近な場所にあることは安心に繋がります。これからの社会の変化に寄り添い、必要な地域や人に医療を届けるために、薬局の枠に捉われず地域の医療に貢献する、いまいメディカルグループの躍進は続きます。

七十七銀行　一番町支店　リーダー　村田 篤俊

いまいメディカルグループ様は、創業以来社員のホスピタリティを高めることに力を入れており、地域住民の「かかりつけ薬局」として貢献し続けています。

地域の課題解決に向けて日々取り組まれている同社の更なるご発展のため、七十七グループとして引続きご支援させていただければと考えております。

左から、R&C木村仁寿上級コンサルタント、大場専務、今井社長、藤谷取締役、七十七銀行 一番町支店 村田リーダー